

179 聖霊を与える約束(二階の広間での説教2)

ヨハネによる福音書 14 : 15~31 Jesus Promises Another Helper

.....間もなく、イエスは弟子たちの前から姿を消そうとしている.....

15 「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。

→イエスは父なる神への従順によって、イエスを信じる者は、イエスへの従順によって愛を示すことになる。

16 わたしは父（なる神）にお願いしよう（＝祈ろう）。父は別の弁護者（→another Helper＝聖霊）を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。

→別の弁護者: アロス(別の) + パラ(傍らに) + クレートス(呼ぶ) = 傍らに召喚された人 another counselor = 全く別個で同じ品性を持つ助け主、イエス御自身と類似した別の助け主、イエスの代理者

→アロス: もう一人(同質)の⇄ヘテロス(異質)

→パラクレートス(ギリシア語): 主の霊、弁護者

→別の弁護者(聖霊)である助け主は、いつまでも信者と共におられる。

17 この方（→別の弁護者: another Helper＝聖霊）は、真理の霊である。

→別の弁護者(聖霊) = 真理の霊 the Spirit of truth

世（→この世に暮らす不信者とこの世を支配しようとする悪の勢力）は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。

18 わたしは、あなたがたをみなしご（→孤児）にはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。

→あなたがたのところに戻って来る: ①携挙、②復活、③ペンテコステの日の聖霊降臨(イエスの復活・昇天後、集まって祈っていた120人の信徒たちの上に、神からの聖霊が降ったという出来事)が考えられるが、①の携挙(ファイル No.178)は既に出現しているので、②および③のことであろう。



磔刑: ニサンの月十五日(金)

1	2	3 日目	1	2	...	39	40 日目	1	2	...	9	10 日目
金	土	日	月	火	...	木	金	土	日	...	日	月
3			40					10				
金	土	日	月	火	...	木	金	土	日	...	日	月

19 しばらくすると、世（→未信者）はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる。

20 かの日（→聖霊降臨の日）には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内におることが、あなたがたに分かる。

21 わたし（＝イエス）の掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。」

22 イスカリオテでない方のユダ (→ヤコブの息子ユダ、ルカ 6 : 16、使徒 1 : 13) が、

「**主よ、わたしたちには御自分を現そうとなさるのに、世にはそうなさらないのは、なぜでしょうか**」と言った。

→ (リビング・バイブル) ユダ (イスカリオテ・ユダではなく、同名の他の弟子) がイエスに、不思議そうに尋ねました。「先生。私たち弟子にだけご自分を現そうとなさって、世の人に現そうとなさらないのはどうしてですか。」

→ユダ (タダイ) は、イエスが王として来られると信じていたので、王として来られるイエスが世に姿を現わさないのはおかしいと考えていた。

【参考】ユダ(タダイ) Judas→「褒められた」ヘブライ語／小ヤコブの兄弟または子

タダイ (ユダ) に関する伝承は定かではないが、小ヤコブの兄弟であったともイエスの親族 (主の兄弟) だったともいわれる。十二使徒として活動を共にしてはいたが、福音書には名前しか出てこない (マタイによる福音書 10 : 3、マルコによる福音書 3 : 18)。

イエスを裏切った「イスカリオテのユダ」とは別人で、「イスカリオテのユダ」と区別するため、「ヤコブの子ユダ」(ルカによる福音書 6 : 16、使徒言行録 1 : 13 の 2 か所のみ) とも呼ばれている。イエスを裏切って自殺した「イスカリオテのユダ」との混同を避けるために軽視されてきた (?) ようで、「忘れられた聖人」とも呼ばれた。タダイはバルトロマイとともにエデッサ (現ウルファ、トルコ南東部) やアルメニア (西アジアの南コーカサスに位置する共和制国家) に宣教したといわれる。彼らによってアルメニアに初めてキリスト教がもたらされたとされ、アルメニア使徒教会は、彼らによって建てられた教会と伝えられている。

ペルシアで斧で殺害され、シモンとともに殉教したといわれている。

23 イエスは (ユダに) こう答えて言われた。

「**わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。**

24 **わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。**

あなたがたが聞いている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。

25 **わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。**

→ (リビング・バイブル) 今、まだあなたがたといっしょにいる間に、このことをみな話しておきます。

26 **しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。**

→ (リビング・バイブル) しかし、父がわたしの代わりに助け手 (聖霊) を送ってくださる時には、その方があなたがたにすべてのことを教え、わたしが話しておいたことを、みな思い出させてくださるので

す。
→ここでの教えは、弟子たちに対する「啓示」である。「啓示」は、神より、真理または通常では知りえない知識・認識が開示されることをいい、新約聖書の完成以降は「啓明」は考えられるとしても、「啓示」はない。

27 **わたしは、平和 (→シャローム : ①完全な幸福感と②心、体、精神の完全な状態) をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。**

→ (リビング・バイブル) あなたがたに贈り物をあげましょう。あなたがたの思いと心を安らかにすること、それがわたしの贈り物です。わたしが与える平安は、この世のはかない平安とは比べものになりません。だから、どんな時にもおろおろしたり、恐れったりしてはいけません。

→シャローム（ヘブライ語：「平和」「平安」を意味する挨拶で、「こんにちは」「こんばんは」「やあ！」などと訳される。朝でも昼でも夜でも使えるという点では、Hello に似ている。日本の場合は、午前10時までが「おはようございます」、10～18時が「こんにちは」、18時以降が「こんばんは」となります。

28 『わたしは去って行くが、また、あなたがたのところへ戻って来る』(18節) **と言ったのをあなたがたは聞いた。わたしを愛しているなら、わたしが父のもと（→父なる神のそばで治めるために天の国）に行くのを喜んでくれるはずだ。父はわたしよりも偉大な方だからである。**

→（リビング・バイブル）『わたしは去って行くが、また戻って来る』と言ったことを思い出しなさい。ほんとうにわたしを愛しているなら、今わたしが父のもとに行けるのを、心から喜んでくれるはずです。父はわたしよりも偉大だからです。

29 **事が起こったときに、あなたがたが信じるようにと、今、その事の起こる前に話しておく。**

→（リビング・バイブル）わたしは、まだ起こっていないことを前もって話しました。それが起こった時に、あなたがたがわたしを信じるためです。

30 **もはや、あなたがたと多くを語るまい。世の支配者（であるサタン[悪魔]）が来るからである。だが、彼はわたしをどうすることもできない。**

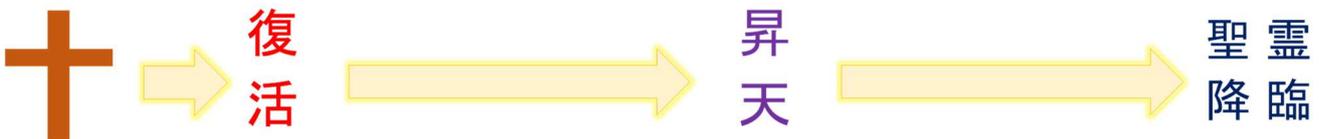
→（リビング・バイブル）もう、あまり多くのことを話す時間がありません。この世の悪い支配者が、そこまで近づいているからです。彼はわたしに何もできません。

31 **わたしが父を愛し、父がお命じになったとおりに行っていることを、世は知るべきである。さあ、立て。ここ（→二階の広間）から出かけよう。」**

→（リビング・バイブル）わたしは、父がしなさいとおっしゃることを進んで実行します。わたしが父を愛していることを、世の人が知るためです。さあ、出かけましょう。

【参考】 イエスの十字架から聖霊降臨まで

マタイによる福音書	16:21 このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。
マタイによる福音書	17:23 そして殺されるが、三日目に復活する。」弟子たちは非常に悲しんだ。
マタイによる福音書	20:19 異邦人に引き渡す。人の子を侮辱し、鞭打ち、十字架につけるためである。そして、人の子は三日目に復活する。」 (→ローマ人)
マタイによる福音書	27:64 ですから、三日目まで墓を見張るように命令してください。そうでないと、弟子たちが来て死体を盗み出し、『イエスは死者の中から復活した』などと民衆に言いふらすかもしれません。そうすると、人々は前よりもひどく惑わされることになります。」
ルカによる福音書	9:22 次のように言われた。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」 ※1
ルカによる福音書	18:33 彼らは人の子を、鞭打ってから殺す。そして、人の子は三日目に復活する。」
ルカによる福音書	24:7 人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」
ルカによる福音書	24:46 言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。』」
使徒言行録	1:3 イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。
使徒言行録	1:9 こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。
使徒言行録	2:1 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、 (→過越祭から50日後に行われるユダヤ人の祭りで、小麦の収穫を祝うことから収穫祭とも呼ばれる。)
使徒言行録	2:2 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。
使徒言行録	2:3 そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。
使徒言行録	2:4 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。
使徒言行録	10:40 神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。
コリント信徒への手紙 I	15:4 葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、



1	2	3 日目	1	2	...	39	40 日目	1	2	...	9	10 日目
金	土	日	月	火	...	木	金	土	日	...	日	月
3			40					10				

※1:古代ユダヤ社会において、長老は経済的に余裕を持った年配者で、祭司長と密接な関係を持ち、指導者的立場にあった。彼らはローマ帝国よりユダヤ人の地元の問題を取り決める権利を付与され、議会(最高法院、サンヘドリン)を結成していた。律法学者はユダヤ教の学者で、律法を研究し、その教えに沿っていかに生きるかを説いていた。祭司長は神殿の中での祭儀、財政、警察を担当し、最高法院の中枢にあたる者である。